



社会福祉

法

人

豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより

ボランティアグループ
あれこれ

運転ボランティアグループ 「豊中アッシー」編



【豊中アッシー】です。皆さんは好きな時に好きな所へいつでも自由に行ける立派な素晴らしい足をお持ちです。しかし立派な足をお持ちであっても、思う時に思った所へ自分の力では行けない、身体障害を持った方や高齢者の外出のお手伝いをさせていただいているグループです。

グループの誕生は平成4年で、登録ボランティアグループ【みちしるべ】の仲間の人たちの中から車の好きな人たちで作られました。最初はそれぞれの自家用車を出して、車椅子はトランクへ入れて病院の送迎とかお買物のお手伝い等をしていました。

その何年後かにリフト付きの自動車「ユウあい号」をある企業から寄付していただきました。そうしてグループ名は皆様の【足】として支援して行く為に【アッシー】と名づけられ、今日まで活動させていただいています。車にはガソリン、車検などの維持費が必要なので、利用されている方々から利用の際は少しだけご負担をお願いしています。

現在ボランティアは15人で、女性もいます。利用者さんが安心して気持ち良く利用していただける為に、研修会、講習会を行いさらに気をつけて安全運転第一で頑張っています。定例会は毎月、第三木曜日10時から12時まで、ボランティアセンター【ぷらっと】で行っています。

ユウあい号ご利用希望の方は社会福祉協議会の方までお尋ねください。担当職員がお伺いして詳しくお話をさせていただきます。(豊中アッシー H. T)

第63号 2016年(平成28年)4月1日
発行 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会
ボランティアセンターだより編集委員会
〒560-0023 豊中市岡上の町2-1-15
Tel (6848) 1000 FAX (6848) 1005
URL: <http://www.toyonaka-shakyo-vc.org/>
E-mail: tcpvc@gold.ocn.ne.jp



▲はじめま専科で試乗体験をしました。



▲JAFの方を招いて講習会を行いました。

◎活動に興味のある方は・・・ご見学、お問合わせください。

☆定例会

日時：第3木曜日 10時00分～

☆お問合わせ

豊中市社会福祉協議会 ボランティアセンター「ぷらっと」

豊中市岡上の町2-1-15(豊中市すこやかプラザ2階)

☎ 06-6848-1000



平成27年度 災害支援訓練

平成 28 年 1 月 16 日（土）、豊中市すこやかプラザにて 19 回目となる「災害支援訓練」が行われました。

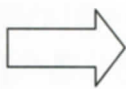
今回の訓練は上町断層帯地震が発生し震度 6 以上の強い揺れが豊中市全域で観測されたと想定して実施されました。豊中市社協で福祉救援対策本部を立ち上げ、災害ボランティアセンターにボランティアが集まり、受付や派遣先など調整するシミュレーションを行いました。

また、第 2 部では神戸クロスロード研究会会員の神戸市職員と東灘区社会福祉協議会の職員を講師として「クロスロードゲーム」を用いた研修を行いました。ボランティアと市社協職員の垣根を越えてともに活発な意見が飛び交いそれぞれ自分のこととして防災を考える良い機会となりました。

第 1 部シミュレーション訓練



受付



マッチング



派遣

第 2 部クロスロードゲーム



クロスロードゲームとは

「人数分用意できない緊急食糧が届いた。配布するか、しないか」といった実際災害時に遭遇したジレンマに基づき、設問が用意され、「Yes」「No」のカードで自分の考えを示す。そして、その理由を互いに話し合うことによって異なる意見・価値観を共有する方法である。

豊中市社協災害支援ボランティア研修会

行先：丹波市社会福祉協議会

日時：平成 28 年 2 月 16 日



丹波春日福祉センター「ハートフルかすが」に校区、ボランティア団体連絡会からの参加者 24 名と共に訪問しました。

丹波市は平成 16 年 11 月 1 日に水上郡等 6 町が合併して丹波市となりました。人口は 6 万 7,000 人で高齢化率は 31.7%とのことです。以前より自治会の活動が活発で（加入率 98%）、この度の災害でも死者 1 名という結果は、この地域の自治会の強力な支え合いが功をなしたとのことです。

自治会の人々の連帯感がすごく密である為、自治会から行政、社協にあがって来るニーズが多く、連携もスムーズで、すみやかにボランティアを派遣することができたとのことでした。

ただ、私たちの暮らす豊中市では余りにも自治会の力が弱く丹波市の様には動けないと思いました。その中で、一人ひとりが危機感を持ち、自分を守り、他の人々の為に何が出来るかを深く考えさせられる機会になりました。（聴くの会 H. U）

箕面市ボランティアグループ連絡会 池田市ボランティア連絡会 豊中市社協ボランティア団体連絡会の交流会

平成27年12月7日に、豊中市すこやかプラザにて、箕面市、池田市、豊中市ボランティア連絡会の交流会を開催しました。箕面市、池田市とも7名、豊中市からは23名（事務局含む）の参加がありました。

まず、各ボランティア連絡会の紹介を行い、昼食をとりながらの懇談会、テーブルごとの自己紹介と情報交換、さらに各ボランティア連絡会や自グループの問題や課題を話し合いました。

懇談会では、ボランティアさんの愛情たっぷりの手作りのお弁当や食後にはおいしいコーヒーで会話を楽しみました。

話し合いの後、そのテーブルの代表者に報告していただきました。主な内容としては、ボランティアグループの運営、特に活動のための交通費などお金に関することが共通の課題で、民間会社からの助成金を上手に活用している等の意見が出されました。その他では、役員の後継、メンバーの高齢化、世代交代など多くのボランティアグループが抱えている問題がありました。ただこれらの問題を今後どのように解決していくかが課題です。

約4時間の交流会でしたが、全体として和やかな雰囲気が進み、両市ボランティア連絡会だけでなく、豊中市ボランティア連絡会のメンバーにとっても、有益な交流会となりました。今度とも、他市町ボランティア連絡会との交流会を継続実施していきたいと考えています。（みちるべ M. H）



📁 ボランティアはじめま専科 報告

📁 ☆アクセス

📁 「アクセス」は、社協ボランティアセンターのホームページ更新（ボランティア活動情報・イベント情報・案内・募集の呼びかけなど）を行っている登録ボランティアです。

📁 2月3日に深井美智代（パソカフェ悠々代表）さんをお迎えし、Windows10の説明から入手に至るまでの注意点、旧バージョンとの違い等をわかりやすく説明していただきました。

📁 4名の一般参加者、当メンバーからの初歩的な疑問にも丁寧に答えていただきました。

📁 バージョンアップされている方は知り得たことを早速試してみるご様子で、これからアップされる方は、今回の話を参考に試みると仰ってられました。

📁 その後2名の方が定例会を見学に来られ、我がメンバーのパソコンへの熱意に魅了され、1名の方がボランティア登録されました。



第23回 豊中ボランティア

～東日本大震災から5年

市民の方へのボランティアの啓発とともに、ボランティアグループ間の交流の場として、ボランティアグループ45団体で組織する市社協ボランティア団体連絡会と豊中市社協の共催で実施する恒例のイベント、今回も約370名の参加者で会場の豊中市すこやかプラザは大変にぎわいました。

今年のテーマは2011年に起こった東日本大震災。ボランティアの方や社協が行ってきた取り組みについても報告させていただきました。

まずは準備から・・・

当日8時半ごろからボランティアの方が集まり会場設営をしました。



準備前の確認

イスを並べたり、机を運んだり、パネルを展示したりして会場が出来上がりました。



講演会場



パネル展示

フロアでは体験コーナー実施

アイマスク・車イス・高齢者疑似体験・折り紙・点字・手話・ホームページ作成・リフト付き自動車試乗・バルーンアート・ノルディックウォークが体験できました。体験するとスタンプがもらえ、3つ以上のスタンプで景品をプレゼントされました。



▲バルーンアート



▲点字体験



▲折り紙



▲リフト付き自動車試乗



▲高齢者疑似体験



▲車イス体験

☆フロアにはその他にも東北物産展やびーの作品販売、福祉の店「なかま」出張店などがありました。



▲東北物産展



▲びーの作品販売



▲福祉の店「なかま」出張店

▼ボラフェスカフェ



☆また、2階には軽食販売やボラフェスカフェがあり、ほっと一息ついていただけたようになっていました。カフェでは講演時に同時中継もしていました。

その他・・・

受付で抽選会の案内をしていただいたり、ボランティア相談コーナーを設けて相談を受け付けました。

また、ボランティアグループのパネル展示をし、活動を紹介しました。

▼グループ紹介パネル展示



フェスティバル

H28. 3. 5 (土)

伝えよう！ 行動しよう！ つながる気持ち～



ステージでは活動発表や講演が行われました

オープニングは刀根山高校吹奏楽部による「ひょっこりひょうたん島」の演奏でした。

ステージ発表の内容は、福祉共育学習発表、腹話術と紙芝居、合唱、ノルディックウォーク活動紹介、歌体操、手品、民謡、手作り介護用品ファッションショー、豊中市社会福祉協議会の東日本大震災支援活動について、朗読「つなみてんでんこ はしれ、上へ!」、東日本大震災被災地支援ボランティアバス報告、講演「東日本大震災から5年～陸前高田市における復興の現状と課題～」でした。

最後にお楽しみ抽選会を行い、エンディングではボランちゃんも登場し、手話コースを行いました。



▲オープニングの演奏



▲ノルディックウォーク紹介



▲手作り介護用品ファッションショー



▲ボランティアバス報告



▲エンディングの手話コース

☆その他、ステージでは手話通訳や要約筆記でステージをサポートしていました。また、ボランティアの方にステージを撮影していただきました。



▲手前のテーブルに要約筆記
奥では手話通訳



▲赤いシャツを着てステージを撮影中

講演の感想
講演タイトル：東日本大震災から5年～陸前高田市における復興の現状と課題～
講師：久保田 崇 氏
(岩手県陸前高田市 前副市長)



東日本大震災から5年の歳月が経ちました。2020年には仮設ゼロの復興目標を掲げているものの、津波による被害が甚大なものであったため、地盤のかさあげの工事の必要性を伴い、復興には時間がかかりますと話されました。今なお仮設住宅で生活されている人々が6割。しかし、「仮設ゼロ＝復興」とは言いきれない部分もあるとのこと。復興には定義はなく、復興に対して個人個人でとらえ方が違うのだそうです。特に、家族を亡くされた方々にとっては、復興に終わりはないとのことでした。

久保田氏が課題として訴えたことは以下です。「ボランティアを受け入れる側としては、効率性と安全性の課題を考え、危険性を伴わないボランティア活動を考える必要性」「物資支援とその質と量は人びとのニーズに応じて節目節目に考えるべき」「今後、東北だけが被災地ではなくどこにでもおこりうるということを想定し、過去におきた災害について学んでいく必要がある」「普段からおこりうる災害を想定してハザードマップがどこで、どういう避難所があり、その時自分はどのような地域のボランティアに行くのかを考えておくこと」「ボランティア活動は遠くに行くのがボランティア活動ではない、まずは、自分の身のまわりの防災を考えていくこと」「修学旅行や企業研修などの受け入れを通して、組織としてのボランティア活動を行い、より身近なものとして広げていくこと」が必要であると話されました。

防災に対して市民一人ひとりが今から出来ることを行動に移し、今一度、地域と連携した討議を重ねなければならないと感じました。(そよかぜ K. O)



登録ボランティア新年の集い

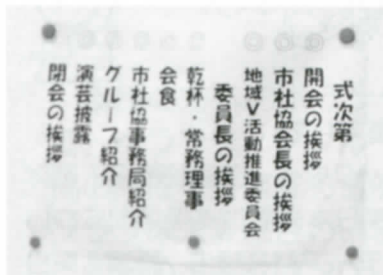


1月29日、登録ボランティアによる新年の集いが豊中市立福祉会館で開催されました。参加者は75名でした。

「新年の集い」は普段個人でボランティア活動をしている方や登録ボランティアグループに所属している方が一堂に会する年に一度の交流イベントです。

お弁当を食べながら会話を楽しみ、登録ボランティアグループの紹介やボランティアによる演芸披露などが行われました。

演芸は、歌体操、ハーモニカ演奏、日本舞踊、フルート演奏、歌、ギター演奏など個々の特技を披露され、大変盛り上がりしました。



▲ギター演奏を披露！



▲ハーモニカ演奏に飛び入り参加の踊り♪



▲地域ボランティア活動推進委員会委員長による挨拶



▲「さわやか」による歌体操

▼手遊びを皆で



▼フルート演奏を披露♪

▼赤い法被で歌を披露♪

▼華麗な日本舞踊を披露



ホームページ作成ボランティア「アクセス」と手話サークルゆうなぎが 厚生労働大臣表彰を受けました！



豊中市社協ボランティア団体連絡会の加盟グループであるホームページ作成ボランティア「アクセス」と手話サークルゆうなぎが平成27年度（2015年度）厚生労働大臣表彰を受けました！

この表彰は福祉分野におけるボランティアで、その功績が特に顕著である個人及び団体に対して贈られるものです。

平成27年（2015年）12月10日、両グループ代表者が豊中市役所を訪れ、浅利敬一郎市長より表彰状をいただきました。

ボランティア訪問記 しあわせの村 外出支援グループみちしるべ

平成27年11月に、みちしるべの研修として神戸市北区の福祉施設“しあわせの村”を訪れました。自然に囲まれた広大な敷地に、各種の福祉施設が点在し、園内には各種運動施設や遊歩道、レストランなどが整備され、入所されている人たちだけでなく、一般の人たちも利用できる複合施設です。

我々は、障害者施設「ワークホーム緑友」と高齢者施設「神港園」を見学しました。ワークホーム緑友には障害の程度に合わせた作業場が併設されており、各々の仕事に精を出している様子や、開放的で明るい雰囲気を感じました。神港園は居宅介護の施設で、施設全体が明るく、居室も広々として清潔で、利用者の皆さんの笑顔が印象的でした。みちしるべのメンバー全員、このような施設を見学できるしあわせを改めて感じた研修でした。(みちしるべ M. H)

福祉体験学習

豊中市内の学校では、福祉教育に力を入れています。豊中市社会福祉協議会ではボランティアの派遣や福祉用具の貸し出しをして協力しています。車イス、アイマスク体験、インスタントシニア体験、手話、点字、手作り介護用品等さまざまな体験にボランティアと生徒達が一体になっての学習のお手伝いをしています。

各ボランティアグループでは、小学生、中学生、高校生それぞれに合わせたプログラムを工夫して、少しでも体験型学習の成果が高まるように努力しています。学校の学習の組み立て、行事等で、体験学習が秋から冬に集中し、どのボランティアグループでもメンバーのやりくり、教材の準備にと大変ですが、未来ある子ども達のため、出来るだけのことはしたいと頑張っています。

また、理解を深め、学習準備に役立てていただくために、教職員の皆様にも夏休みを利用しての体験プログラムを用意し、先生方のお手伝いもしています。(ステッキ K. S)

手話

「あさなぎ」は豊中市社会福祉協議会を通じて、豊中市内の様々なイベント、学校に手話の普及の為に聴覚障害者の方と共に活動しております。“ボランティアフェスティバル”には、毎回手話通訳として参加させていただいております。

小学校・中学校・高校と教育の場では手話の普及に努めており、小学校では歌に手話を付けて楽しく勉強し、中学校では自己紹介が出来る様に指文字を取り入れ、高校になると手話言語法の話など各学年に合った内容で行っております。

学生の頃から手話を知ってもらい、聴覚障害者の方への理解を学習も兼ね体験してもらうというのは、これからの豊中の為、そしてより良い社会への第一歩だと思い、活動させていただいております。

(あさなぎ F. T)



手話歌の「ともだちになるために」の練習中♪



高齢者疑似体験中に自動販売機へ。財布から小銭を出して投入口へ入れることに悪戦苦闘しました。

インスタントシニア

インスタントシニア体験では「ステッキ」の説明のもと、高齢者の疑似体験をしています。目には白内障体験ゴーグル、耳にはイヤホン、肘や膝にはサポーター、手首・足首には重り、手には手袋などをします。

視野が狭くなった、耳が聞こえにくくなった、関節が思うように動かない、手が乾燥してうまく物がつかめないなどの体験を通して、相手の立場に立つ経験をしてもらっています。

「ステッキ」は豊中市内の小学校や中学校での体験学習やボランティア講座などに派遣されています。



ボランティアセンターぶらっとのホームページのアドレスが変わりました！



新アドレスは下記のとおりです！アクセスお待ちしております♪

<http://www.toyonaka-shakyo-vc.org/>



ボランティア活動 総合保障制度のご案内

安心してボランティア活動や地域活動に取り組んでいたために、ボランティア活動総合保障制度があり、ボランティアセンターが窓口になっています。

◆ボランティア活動保険

(ボランティア活動中の事故に備えていただくもの)

⇒ボランティア活動を行う団体対象

◆ボランティア・市民活動行事保険

(主催者が賠償責任を負った場合に備えていただくもの)

⇒スポーツ活動や子ども会活動など各種ボランティア・市民活動団体対象

※不特定多数の方が参加される行事はこの保険の対象にはなりませんのでご注意ください。

※補償内容は毎年変わります。保険加入の際にはご確認ください。

詳細はボランティアセンターまでお問い合わせください

ボランティアメール配信中！！

【登録方法】



⇒QRコード読み取っていただき、画面の指示に従って、ご登録ください。

知ト関テメ
ら情連イー
せ報すアル
しなるので
どイ講ボ
をべ座ラ
おんやん

※下記URLからもご登録いただけます。

URL :
<https://service.sugumail.com/toyonaka-city/>



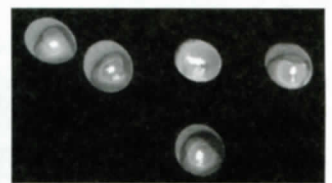
※登録申込は無料ですが、登録・メール受信にかかる通信料はご負担ください。

東日本大震災被災地への支援活動のひとつとして、被災地支援金募金の受付を継続しています。今年度も東北物産展の売上利益、個人、各種団体からのご寄付をいただきました。みなさまからお預かりした支援金は中央共同募金会を通じて被災3県の住民を支える活動に役立てられるよう送金させていただきます。ありがとうございました。

《平成27年度受付支援金総額》

⇒ 83,979円 (H28.3.30 現在)

今年も3月11日に支援の集いを実施しました。集まった募金からロウソク代をひき、21世紀枠で春のセンバツ高校野球に出場した釜石高校に寄付しました。



ちょボラ台湾地震募金活動報告

ちょボラサロンの参加者で岡町商店街にて募金活動を行いました。当日は寒い中短時間の活動になりましたが、13,500円の寄付が集まりました。この救援金は日本赤十字社豊中市地区を通じて送金させていただきます。ありがとうございました。

編集後記



時計店の古時計からはチックタック ポーンポーン と聞え／きらびやかな掛け時計や腕時計の秒針はす～と動いている／懐かしいチックタック ポーンポーン は／ゼロイチゼロイチでデジタル的な動き／新しい時計の秒針がす～と動くのはアナログな動き／天地逆転じゃ！／近頃の世の動き可怪しくはないですか／逆走しているように感じますよ／皆様いかがお感じですか (M. D)

